

【表紙】

【提出書類】	訂正発行登録書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年9月2日
【会社名】	みらかホールディングス株式会社
【英訳名】	Miraca Holdings Inc.
【代表者の役職氏名】	取締役 代表執行役社長 竹内 成和
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿二丁目1番1号
【電話番号】	03(5909)3335(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役兼CFO 北村 直樹
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿二丁目1番1号
【電話番号】	03(5909)3337
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役兼CFO 北村 直樹
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	社債
【発行登録書の提出日】	2019年8月23日
【発行登録書の効力発生日】	2019年8月31日
【発行登録書の有効期限】	2021年8月30日
【発行登録番号】	1 - 関東1
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 20,000百万円
【発行可能額】	20,000百万円 (20,000百万円) (注)発行可能額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額(下 段()書きは、発行価額の総額の合計額)に基づき算出してお ります。
【効力停止期間】	この訂正発行登録書の提出による発行登録の効力停止期間は、 2019年9月2日(提出日)であります。
【提出理由】	2019年8月23日付で提出した発行登録書の記載事項中、「第一 部 証券情報 第1 募集要項」の記載について訂正を必要とす るため及び「募集又は売出しに関する特別記載事項」を追加す るため、本訂正発行登録書を提出いたします。
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

【訂正内容】

第一部【証券情報】

第1【募集要項】

1【新規発行社債】

(訂正前)

未定

(訂正後)

本発行登録の発行予定額のうち、金20,000百万円を社債総額とするみらかホールディングス株式会社第3回無担保社債(ソーシャルボンド)、みらかホールディングス株式会社第4回無担保社債(ソーシャルボンド)及びみらかホールディングス株式会社第5回無担保社債(ソーシャルボンド)(以下「本社債」と総称する。)(別称:みらかホールディングスソーシャルボンド)を、下記の概要にて募集する予定です。

<みらかホールディングス株式会社第3回無担保社債(ソーシャルボンド)に関する情報>

券面総額又は振替社債の総額:100億円

各社債の金額:金1億円

発行価格:各社債の金額100円につき金100円

償還期限(予定):2024年10月(5年債)(注)

払込期日(予定):2019年10月(注)

(注)それぞれの具体的な日付は今後決定する予定です。

<みらかホールディングス株式会社第4回無担保社債(ソーシャルボンド)に関する情報>

券面総額又は振替社債の総額:50億円

各社債の金額:金1億円

発行価格:各社債の金額100円につき金100円

償還期限(予定):2026年10月(7年債)(注)

払込期日(予定):2019年10月(注)

(注)それぞれの具体的な日付は今後決定する予定です。

<みらかホールディングス株式会社第5回無担保社債(ソーシャルボンド)に関する情報>

券面総額又は振替社債の総額:50億円

各社債の金額:金1億円

発行価格:各社債の金額100円につき金100円

償還期限(予定):2029年10月(10年債)(注)

払込期日(予定):2019年10月(注)

(注)それぞれの具体的な日付は今後決定する予定です。

2【社債の引受け及び社債管理の委託】

(訂正前)

未定

(訂正後)

社債の引受け

本社債を取得させる際の引受金融商品取引業者は、次の者を予定しています。

引受人の氏名又は名称	住所
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号
S M B C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号

3【新規発行による手取金の使途】

(1)【新規発行による手取金の額】

(訂正前)

未定

(訂正後)

本社債の払込金額の総額20,000百万円(発行諸費用の概算額は未定)

(2)【手取金の使途】

(訂正前)

設備投資資金、借入金返済資金及び投融資資金に充当する予定であります。

(訂正後)

本社債発行による手取金は、当社子会社である株式会社エスアールエルを通じて、臨床検査における検体検査を実施する当社グループ中核施設として建設予定の新セントラルラボラトリーの機器及びITシステムの導入費用に充当するほか、当社子会社である合同会社みらか中央研究所を通じて、検査の質の向上と革新的な技術開発に向けた研究開発費用に充当する予定であります。

「第一部 証券情報 第2 売出要項」の次に以下の内容を追加します。

【募集又は売出しに関する特別記載事項】

< 本社債（別称：みらかホールディングスソーシャルボンド）に関する情報 >

ソーシャルボンドとしての適格性について

当社は、ソーシャルボンドの発行のために「ソーシャルボンド原則（Social Bond Principles）2018」（注1）（以下「ソーシャルボンド原則2018」という。）に即したソーシャルファイナンスフレームワーク（以下「本フレームワーク」という。）を策定しました。なお、ソーシャルボンドに対する第三者評価として、株式会社格付投資情報センター（以下「R&I」という。）より「R&Iソーシャルボンドオピニオン」（注2）を取得しております。

（注）1 「ソーシャルボンド原則（Social Bond Principles）2018」とは、国際資本市場協会（ICMA）が事務局機能を担う民間団体であるグリーンボンド・ソーシャルボンド原則執行委員会（Green Bond Principles and Social Bond Principles Executive Committee）により策定されているソーシャルボンドの発行に係るガイドラインです。

2 「R&Iソーシャルボンドオピニオン」とは、ソーシャルボンド発行のフレームワークについての国際資本市場協会（ICMA）が策定するソーシャルボンド原則2018との評価時点における適合性に対するR&Iの意見です。

ソーシャルファイナンスフレームワークについて

当社は、ソーシャルボンドを発行するにあたり、ソーシャルボンド原則2018を構成する4つの核となる要素、（1）調達資金の使途、（2）プロジェクトの評価と選定のプロセス、（3）調達資金の管理及び（4）レポートに適合する以下のフレームワークを策定しました。

（1）調達資金の使途

当社は、ソーシャルファイナンスで調達した資金を、「検査ラボ棟」「R&D棟」「管理・厚生施設」からなる最先端の「新セントラルラボラトリー」をグループの中核施設として建設するプロジェクト（あきる野プロジェクト）の「機器」及び「ITシステム」の導入に充当する予定であります。

また、より効率的な医療を実現するため、検査の質の向上と革新的な技術開発に向けた「研究開発」にも充当する予定であります。

当社は、あきる野プロジェクトの推進及び研究開発の実施を通じて、以下の6つの社会課題の解決について取り組んでまいります。なお、これらの取り組みは国連の提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」、日本政府の「SDGs実施指針」にも合致するものです。

[取り組む社会課題]

日本の社会保障費（医療費）抑制への要請

医療の質を維持しつつ、検査価格抑制への要請

未病（自覚症状はないが検査では異常がある状態）・健診充実及び先端的医療への対応の必要性

地域における医療充実の必要性

災害対応（地震等の災害発生後も止まらない検査施設）

先端的医療に資する研究開発の必要性

「新セントラルラボラトリー」

臨床検査における検体検査について一般検査（注3）と特殊検査（注4）の両方を実施します。一般検査では大量処理及び全自動化、特殊検査では最先端検査の導入及びロボット・AIを用いた自動化をコンセプトとして機器・ITシステムに投資予定です。

主な機器：検体受付の搬送ライン、一般検査の全自動化機器、特殊検査の検査機器、AIを用いた検査システム/ロボット、感染性廃棄物処理施設機器、機器に附属するソフトウェア

主なITシステム：基幹システム、受付検査システム、統合連携基盤システム、統合マスタ管理システム、帳票基盤システム

（注）3 「一般検査」とは、病気の有無や臓器の機能を調べる検査のことです。

4 「特殊検査」とは、病気の原因や進行度を調べる検査のことです。

「研究開発」

下記3セグメントにおいて将来の事業シーズとなる基礎研究に要する費用に調達資金を充当する予定です。

- ・革新的分析プラットフォーム
- ・医療イノベーション基盤技術
- ・医療情報・バイオインフォマティクス・AI

（2）プロジェクトの評価と選定のプロセス

持続可能な社会、もしくは社会課題解決に向けたビジョン・目標・戦略について

当社は、CSRの考え方を『「企業理念」、「目指す姿」、「価値観・行動様式」を理念体系として定め、これに基づく企業活動を通じてCSRが実現できると考えます。この活動により社会課題の解決に取り組み、幅広いステークホルダーと良好な関係を構築いたします。』と定めています。

適格なソーシャルプロジェクトと判断するプロセス

ソーシャルプロジェクトメンバー（注5）において適格なプロジェクトを選定の上、みらかグループCSR委員会（注6）において適格性の確認を実施したのちに、当社取締役会で承認しました。

プロジェクトが有する潜在的な社会的・環境的リスクと、リスクへの対応

当社グループは資金使途となるプロジェクトに係る潜在的な社会的・環境的リスクについて、あきる野プロジェクトにおける建設工事等に係る地域環境及び近隣住民への影響や廃棄物・排水に係る自然環境への悪影響等新セントラルラボラトリーの建設が及ぼす地域社会、自然環境への負の影響及び研究開発における法規制への対応、研究開発の失敗による経営状況の悪化、研究過程における不正行為等を想定し、これらに対し地域環境に配慮した新セントラルラボラトリーの設計や環境マネジメントシステム認証の取得、当社及び子会社全体での適正なリスクマネジメント並びにグループ全体におけるリスク許容量の範疇での研究開発の実施等の対応をとることとしています。

（注）5 「ソーシャルプロジェクトメンバー」とは、当社CF0、経理財務本部/本部長、経理財務本部/部長、コーポレートコミュニケーション本部（CSR）/本部長、株式会社エスアールエル/取締役、合同会社みらか中央研究所/社長他のメンバーで構成されます。

6 「みらかグループCSR委員会」とは、当社CSR活動の推進を目的に設立され、CSRに係る基本方針や活動計画について協議するほか、CSR活動のモニタリングや、CSRに係る最新の社外動向の共有を行う委員会です。委員長を代表執行役社長が務め、当社執行役及び代表執行役社長が指名した者を委員として構成されます。

(3) 調達資金の管理

対象事業を実施する子会社における資金充当状況は、当社が内部システムを用い経理財務本部が集約し、所定の方法により経理財務本部は本フレームワークによる資金調達額が対象事業の実施に要する総額を超えていないことを確認します。経理財務本部は内部システムを用い、子会社の資金繰りを一元管理しており、グループ全体の資金繰り管理の適正性は、経理財務本部及び外部監査により確認を実施しています。

また、未充当資金については、当社の資金運用規定に則り、現預金による保管等、安全確実な運用を行うこととしています。

(4) レポートニング

資金充当状況

フレームワークによる調達資金の全額が対象事業に全額充当されるまでの期間、毎年の資金充当額及び未充当資金の残額を報告予定です。

インパクト・レポートニング

年に一度、統合報告書において社会的成果を以下のアウトプット指標、アウトカム指標、インパクト指標を用いて報告予定です。ただし、「新セントラルラボラトリー」は2021年度初頭より稼働予定であること及び社会的成果の発現に数年を要することから、新セントラルラボラトリーの安定稼働までは計画に基づく予測値を報告する予定です。

指標	新セントラルラボラトリー	研究開発
アウトプット	新たに導入した機器・ITシステムの概要及び投資額、稼働時期等	投資した研究開発の概要
アウトカム	テスト数増加割合 コスト低減割合	研究開発の進捗状況 発表論文数 グループ内外共同研究数 特許出願数 実用につながった事例等
インパクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障費の抑制に繋がる検査に係る診療報酬点数の引き下げ ・ 地域医療の拡充・地域包括ケアシステムの進展 ・ 新規検査技術の研究開発に伴う先端的医療・個別化医療の進展、及びそれらを通じたQOLの向上 	